

三の丸尚蔵館の活動

■開館の経緯

三の丸尚蔵館は、皇室に代々受け継がれた絵画・書・工芸品などの美術品類が平成元年6月、国に寄贈されたのを機に、これらを環境の整った施設で大切に保存・管理するとともに、調査・研究を行い、併せて一般にも展示公開することを目的として、平成5年11月に皇居東御苑内に開館した。

その後、香淳皇后の御遺品等が加わり、現在約9,800点を収蔵している。

■収蔵品の保存と公開

皇室に守り伝えられてきた品々を、調査研究をもとに、保存と公開の両立を図りながら、国民の財産として後世まで継承していくための活動を行っている。

保存・日常的な保存環境の管理と作品のメンテナンス作業

- ・収蔵品の修理事業を計画的に実施

公開・テーマに沿った展覧会による公開

- ・『年報・紀要』『収蔵品目録』等の印刷物による公開
- ・国内外の博物館・美術館での公開（当館参加による特別展、依頼による貸出）

⇒ 優れた作品を中心に、皇室と文化の関わりやその魅力を国内外に紹介



皇居東御苑の公開

○公開日

次に掲げる日を除いて公開

- ・行事实施等のため支障のある日
- ・月曜・金曜(休日の場合を除く)
- ・12月28日～1月3日

○公開時間

3/1 ～ 4/14	9:00～17:00
4/15～ 8/31	9:00～18:00
9/1 ～ 9/30	9:00～17:00
10/1～10/31	9:00～16:30
11/1～ 2/28	9:00～16:00

(入園は公開終了時間の30分前まで)

○出入門

大手門・平川門・北桔橋門

三の丸尚蔵館の開館

○開館日

皇居東御苑の公開日

(ただし展示準備期間は休館)

○開館時間

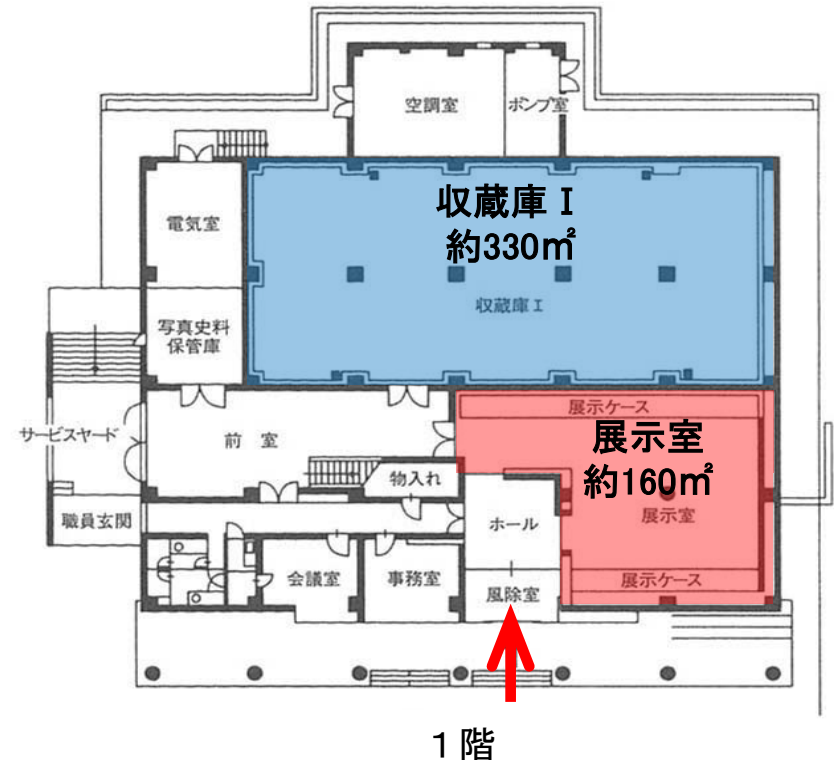
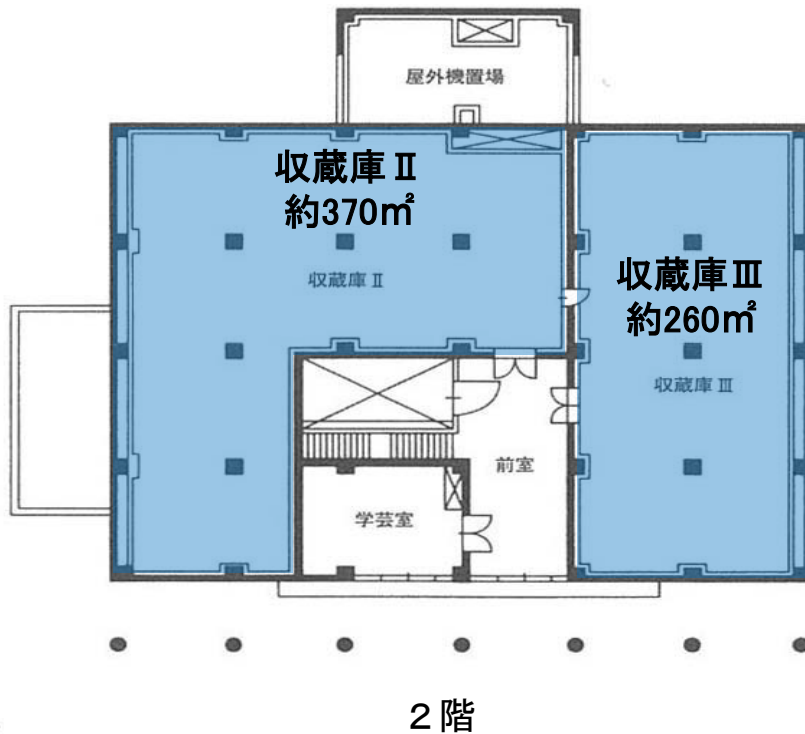
皇居東御苑公開終了時間の15分前
(入館はその30分前まで)

■三の丸尚蔵館平面図（既存棟）

起工 平成3年1月28日

竣工 平成4年8月31日

鉄筋コンクリート造り2階建 切妻屋根本瓦葺



収蔵庫の総床面積 960㎡
展示室床面積 160㎡

三の丸尚蔵館既存棟の主な防火対策

- 実践的な防災訓練の実施

皇宮警察本部及び東京消防庁と連携し、収蔵庫内での火災発生を想定した消火訓練及び作品避難訓練を実施。

- 二酸化炭素消火器の導入等

館内に13か所26本の消火器を設置。

そのうち収蔵庫とその前室については、二酸化炭素消火器を配備。

- 執務スペースへのスプリンクラーの設置

- 漏電火災防止のための工事

職員の退館後・夜間の通電遮断機能の導入。

- 天井照明のLED化

令和3年度に蛍光管だけでなく、照明器具自体をLED灯の照明器具に全て更新。

■収蔵品

平成元年 6 月	天皇陛下、香淳皇后より国に御寄贈	約 6, 3 0 0 点
平成 5 年 11 月	三の丸尚蔵館開館	
平成 8 年 10 月	旧秩父宮家からの御遺贈	約 1, 4 7 0 点
平成 13 年 4 月	香淳皇后の御遺品	約 3 0 0 点
平成 17 年 10 月	旧高松宮家からの御遺贈	約 1, 4 8 0 点
平成 26 年 3 月	三笠宮家からの御寄贈	約 3 0 0 点
計		約 9, 8 0 0 点

(単位：点)

分野	美術品的価値ランク			合計
	A	B	C	
絵画	921	807	7	1735
書跡	236	497	0	733
彫刻	74	137	0	211
工芸	1093	3164	2	4259
考古	3	0	0	3
写真	39	1777	7	1823
歴史史料	114	595	0	709
その他	4	162	43	209
合計	2484	7139	59	9682

「宮内庁三の丸尚蔵館収蔵品の保存・公開の在り方に関する有識者懇談会」における美術的価値の分類
(平成30年2月 第2回同懇談会配布資料より)

- A 国宝、重要文化財の候補になるレベルの質をもっているもの
作品が制作された時代において、重要なもの
皇室の歴史と文化との関わりにおいて重要なもの
- B 美術的、歴史的価値を有し、博物館、美術館で展示することが
適当なもの
- C 美術的、歴史的価値が見いだし難く、展示は不適當なもの

※宮殿等で使用している作品は評価の対象外

収蔵品管理

収蔵品管理システムによって、収蔵品の基本情報、画像、展示や貸出の計画・履歴、修理の計画・履歴を管理。

収蔵品管理システム

★典拠管理 ▾ ⚙️システム管理 ▾ ⚙️管理業務 ▾ ログアウト 👤 (システム管理者)

収蔵品情報 画像・写真情報 ▾ 展示・貸出情報 修理情報 文献情報 画像利用情報 WEB公開検索テーマ管理 リスト管理

収蔵品情報管理 | 詳細

◀ 戻る

1 / 7,891 ▶ ID : 435

更新日時 : 2022-08-24 13:53:17



■: 館内展示 ■: 貸出 ■: 修理



作品名	菊蒔絵螺鈿棚				
作者名	考案：六角紫水、蒔絵：川之邊一朝、金具彫刻：海野勝珉		作者生没年	川之邊一朝1830-1910／海野勝珉1844-1915／六角紫水1867-1950	
制作時代・年代	明治36年(1903)		材質技法	木、漆塗、銀製金具	
員数	1基		寸法(cm)	46.8×135.5×122.0	
分類1	工芸	分類2	漆工	旧台帳番号	
収蔵庫		棚		保管場所	

オリジナル画像ダウンロード

L画像ダウンロード

M画像ダウンロード

S画像ダウンロード

保存・修理

IPM(総合的病害虫管理、Integrated Pest Management)の実施

日常的な収蔵庫、展示室の温湿度測定や、館内の文化財害虫の生息状況を調べる環境調査の結果から、作品保管環境の問題点を挙げ、それを改善する処置を行い、作品保存に適した環境を整える。

温湿度管理

館内の温湿度の測定結果と過去に蓄積したデータを比較することで、変則的な動きをいち早く見つけ、その原因を考察し、対処する。

環境調査

当館職員による年3回の定期調査と、業者による年1回の詳細調査(トラップによる害虫捕獲調査、空気環境測定)。これらの結果から原因を探り、害虫の生息場所及び今後害虫が増加する箇所を予測し、定期的な清掃や除塵防黴施工の実施箇所を決定する。

定期的な清掃

当館研究員が週1回程度実施



収蔵庫前室の
清掃作業風景

除塵防黴施工

施工業者と当館職員による一斉清掃



燻蒸

カビの発生や虫卵が付着している作品に対して燻蒸を実施。

館内での修理・保存箱の製作・材料分析

当館研究員による修理

油彩画や工芸品等の経年による汚損、損傷に対して、当館内で可能な修理や手入れを行い、保存と公開に対する安全性を高める。

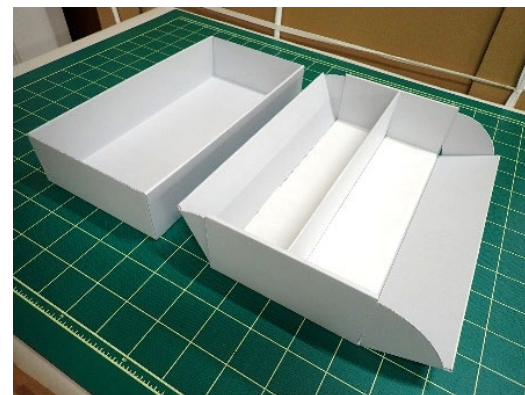
【実績】 令和元年～3年にかけて油彩画10件のクリーニング、キャンバス調整等を実施



修理作業(補彩)

当館研究員による保存箱の製作

作品の保護、取り扱いを安全にするため、作品の大きさに合った保存箱を中性紙のボード等で製作。



製作した外箱
左が蓋部分、右が本体部分。
本体は、画像のように両側面を開くことができる。

当館研究員による材料分析調査

可搬型蛍光X線分析装置を用いて、作品を構成する材料の推定を行なっている。この結果は、作品損傷の原因を知るための手掛かりとなり、修理、保存に役立っている。

軽微な修理

本格的な修理事業とは別に、主に日本画や工芸品について修理業者に修理を委託して、必要に応じた軽微な修理を行い保存と公開に資する。

修理事業の継続実施

平成7年度から、年間4千～5千万円の修理予算によって、
優れた作品の本格的な修理を実施



- ・作品の公開頻度の向上
- ・修理時の詳細な調査の成果により、美術史研究に大きく寄与する。



展覧会や出版物に成果を反映して、多くの人へ普及を図る。

他の研究機関と協力した光学的、科学的な作品調査

作品の材質・形状・技法や損傷の状況を詳細に把握し、修理の方法や、
作品保存の策定に活かす。

(過去の例: 正倉院事務所、東京文化財研究所 等)

過去3か年の修理事業の実績

令和元年度

- ・をくり(小栗判官絵巻) 岩佐又兵衛 巻3・4・8
- ・百鳥図 伝銭選
- ・竹粟に鶉図 伝李安忠

令和2年度

- ・をくり(小栗判官絵巻) 岩佐又兵衛 巻9・10
- ・金沢本万葉集 (1年目)
- ・住吉物語絵巻 (1年目)
- ・霸王別姫図 原在中
- ・短刀 銘 左安吉ノ脇差 銘 備州長船則光ノ刀 銘 伯耆守平朝臣正幸

令和3年度

- ・をくり(小栗判官絵巻) 岩佐又兵衛 巻11・12
- ・金沢本万葉集 (2年目)
- ・住吉物語絵巻 (2年目)
- ・刀 銘 主水正藤原正清ノ脇差 銘 相州住正次ノ刀 銘 兼元

修理事業がもたらした成果（「金沢本万葉集」の場合）

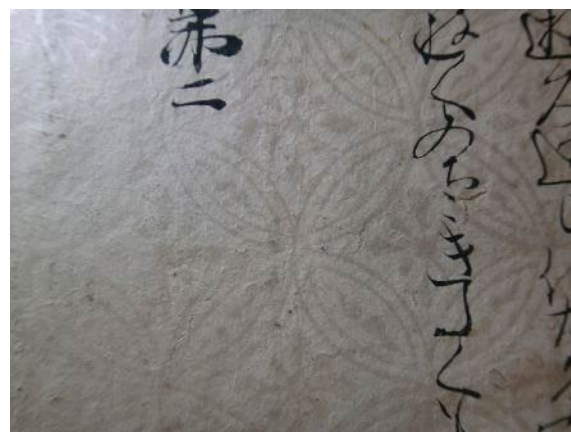
藤原定信「金沢本万葉集」1帖

平安時代中期の古筆の名品で、円熟した和様の書風の変遷過程を知るうえで重要な作。

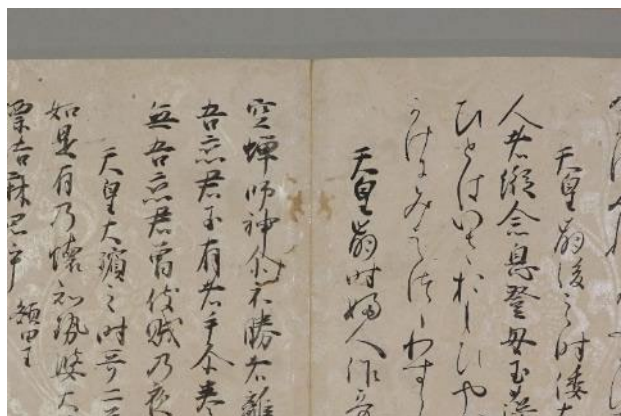
修理前の状態でも最も懸念されたのが、料紙に施された具引き地および雲母摺の剥離、剥落が進行していたこと。さらに、粘葉装であることに起因する、背表紙裂と、見開き中央(通称ノド)の糊代部の糊の接着力の低下による剥離・破損と収縮による本紙表面の暴れなどの損傷が見られた。

特に、展示、調査、撮影などの諸活用における開披に伴い、劣化が促進される懸念があり、安定的な保存・活用を図る必要が生じた。

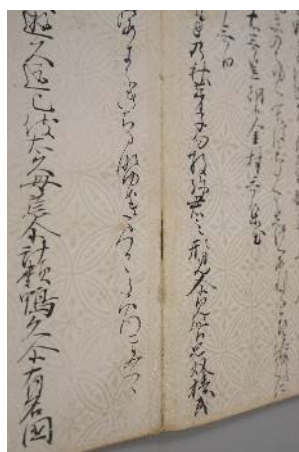
修理は、令和2年度～3年度の2年間で実施。



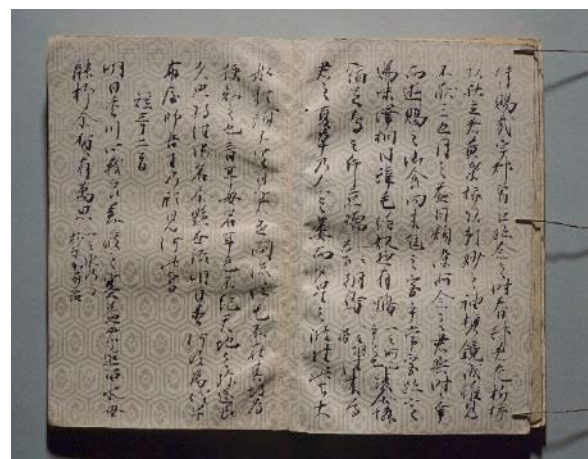
具引き地の剥落



食害による虫損穴



接着力の低下に伴う
糊代部分の剥離



糊の収縮による本紙表面の暴れ

修理後は、前述の損傷、劣化を止める措置が可能となり、安定的な活用と保存が確立された。特に、修理後の安定化とともに、補修によって平滑化した料紙表面の撮影が可能となり、開披可能な丁(糊代のない丁)について、全紙撮影を行った。

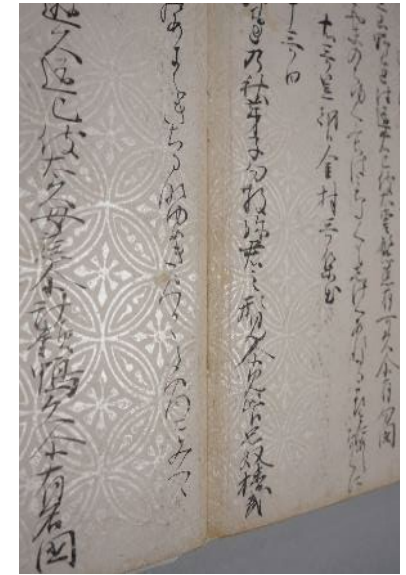
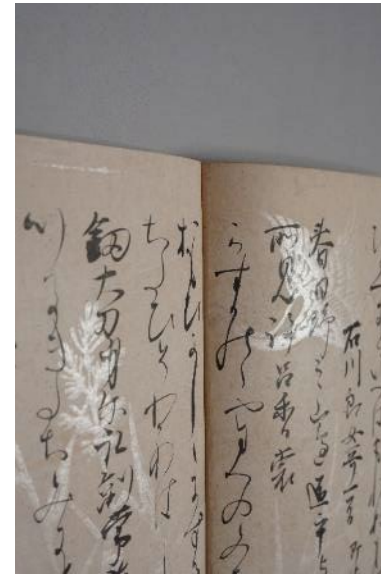
修理後の公開

令和4年 収蔵品公開システム上にて、開披可能な
丁の画像を公開

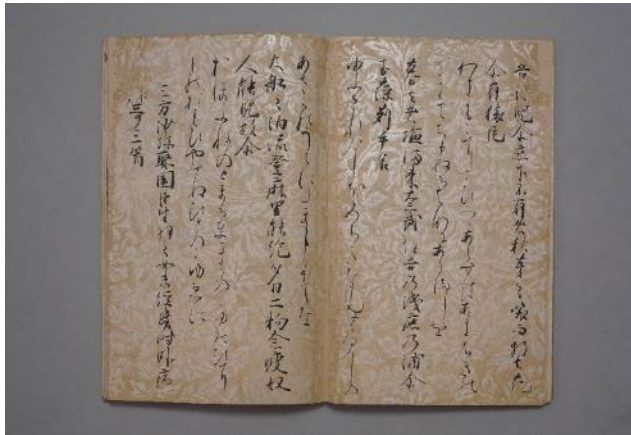
令和5年 石川県立美術館で公開(予定)



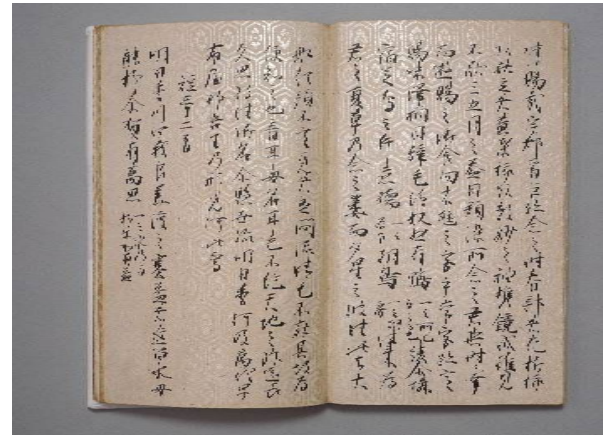
保存と公開の両立



糊代部分および雲母の剥落部分の再接着と剥落止め



損傷著しい丁の補修



本紙表面の平滑化・安定化



本紙表紙の補修・調整

調査研究

展覧会準備に関わる調査

館内の企画展・特別展における１０５冊の展覧会図録・パネルの解説を、調査の成果に基づき、すべて当館研究員が新規に執筆、編集。

紀要 毎年度発行

外部執筆者による論考・報告	３１本掲載
当館研究員による論考	１１２本掲載
修理報告	各年度掲載

収蔵品目録 令和３年度に８冊目を発行

調査・整理に基づく成果を、収蔵品目録として刊行。

(公財)菊葉文化協会の調査

菊葉文化協会が行う皇室ゆかりの文化財の調査研究に協力し、年間に数名の研究員が収蔵品に関わる調査を実施。

公開活動

展示室での公開

収蔵作品によるテーマに沿った展示

収蔵品の特徴－国立博物館、近現代あるいは西洋美術館、民族学を専門とする博物館等が所蔵するような幅広い作品の集合体

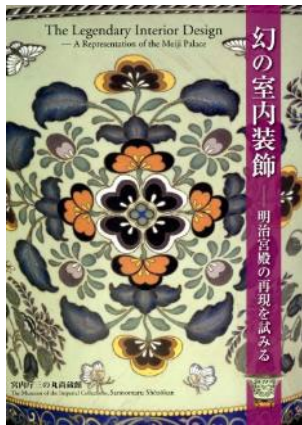
- ・時代は、古代から現代まで
- ・制作地は、日本のみならず、世界諸国・各地域におよぶ
- ・分野は、多種多様



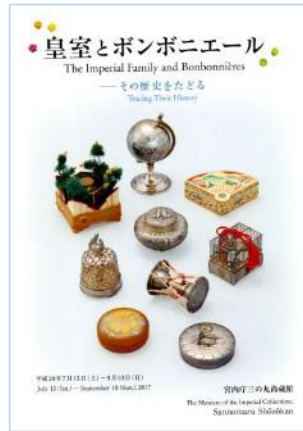
漠然と作品を並べるのではなく、美術的、歴史的視点に基づいたテーマでまとめ、その歴史的背景や美術的存在の意義などを、観覧者に理解しやすい展示となるよう心がける。

これまでに企画展89回を実施

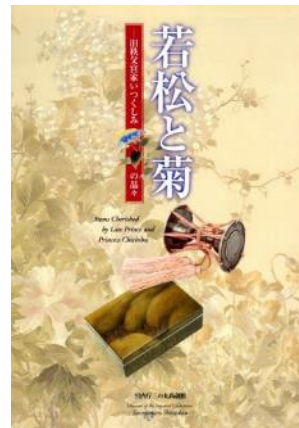
・皇室文化に深く根差したテーマ



第56回「幻の室内装飾
—明治宮殿の再現を試みる」



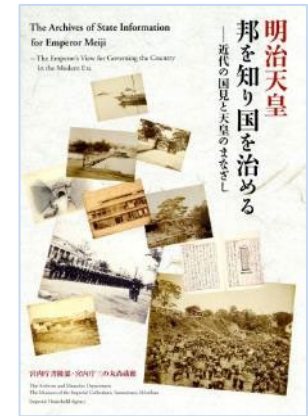
第77回「皇室とボンボンニエール
—その歴史をたどる」



第33回「若松と菊—旧
秩父宮家いつくしみの
品々」



第36回「贈るところ・受
けとられた美—世界の
国々との交流のなかで」



第67回「明治天皇 邦を
知り国を治める—近代
の国見と天皇のまなざ
し」

・日本美術をテーマにしたもの



第39回「やまとうた—
美のころ」



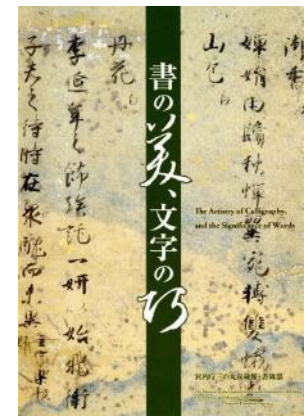
第40回「花鳥—愛でる心、
彩る技<若冲を中心に>」



第41回「明治の彫金—
海野勝珉とその周辺」



第69回「絵巻を愉しむ—
《をくり》絵巻を中心に」



第74回「書之美、
文字の巧」

皇室の御慶事に関わる展覧会などの特別展（これまで16回開催）



平成26年
天皇陛下傘寿記念特別展
「天皇陛下 昭和28年欧米14か国
の旅～新たな感動と出会い～」



平成31年
御即位30年・御成婚60年記念特別展
「御製・御歌でたどる両陛下の30年」



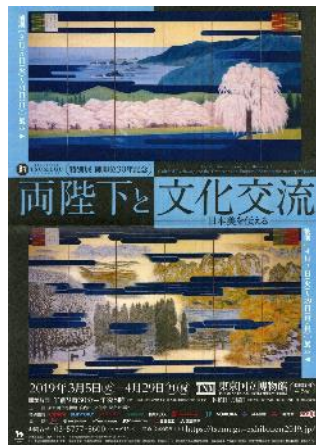
令和2年
御即位記念特別展
「令和の御代を迎えて」

国内外各所での展覧会(共催)

平成30年～令和2年度



平成30年
パリ市立プティ・パレ美術館



平成31年
東京国立博物館



令和元年
東京国立博物館



令和2年 (コロナにより中止)
東京藝術大学大学美術館



令和2年
京都国立博物館

地方展開（共催）

令和3年度以降



九州国立博物館
令和3年7月20日～8月29日



宮城県美術館
令和3年9月18日～11月7日



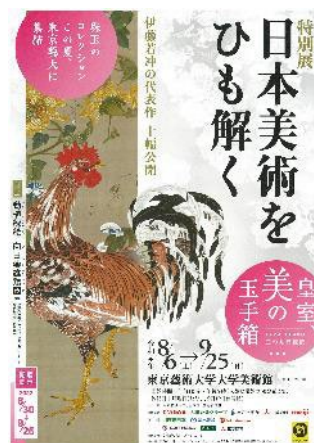
宮崎県立美術館
令和3年10月9日～12月5日



和歌山県立博物館
令和3年12月4日～
令和4年1月23日



瀬戸市美術館
令和4年6月4日～7月31日



東京藝術大学大学美術館
令和4年8月6日～9月25日



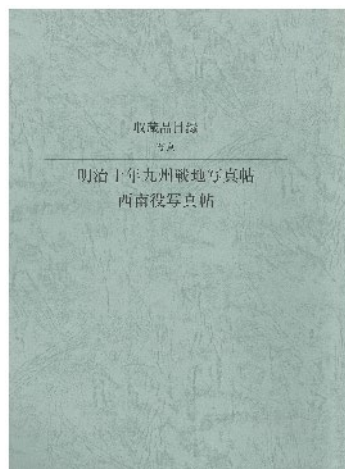
広島県立美術館
令和4年9月16日～
10月30日



一関市博物館
令和4年10月1日～
11月27日

出版物による公開

年4回の各展覧会図録に加え、収蔵品目録、年報・紀要、修理事業報告書の刊行を通して、皇室と日本文化に関わる重要な調査研究報告を行い、国内外から評価を得ている。



収蔵品目録

収蔵作品の中から、優品等について、その全体像を紹介するもの。年1冊制作予定。



年報・紀要

三の丸尚蔵館の概要、前年度の活動報告、収蔵品の調査研究成果をまとめたもの。年1冊刊行。



修理事業報告書

修理作品の中で、日本美術史における名品で、修理の際の調査で、学術的に大きな成果のあったものについて、その詳細をまとめたもの。

宮内庁ホームページにおける収蔵品情報の公開

宮内庁ホームページにおいて公開している「三の丸尚蔵館」のページに、新たなコンテンツを追加し、収蔵品情報を充実

これまでの展覧会図録一覧

平成5年11月の開館以来の企画展の図録をデジタル化して公開。

地域ゆかりの収蔵作品

企画展で展示した収蔵品の中から全国各地域にゆかりのある作品を選び、都道府県ごとに紹介。

これまでの展覧会図録一覧



新たなウェブサイトの公開

収蔵品公開システムによって、展覧会、収蔵品、調査研究、利用案内情報を一般に公開。

宮内庁
三の丸尚蔵館
The Museum of the Imperial Collections,
Sannomaru Shozokan

文字サイズ 小 中 大 日本語 English

展覧会 | 収蔵品 | 利用案内 | 調査研究 | 三の丸尚蔵館について



令和4年9月14日(水)

三の丸尚蔵館は現在、新施設への移行準備のため休館中です。なお、

展覧会



開催中

|| 他館展示

特別展
日本美術をひも解く―皇室、美の玉手箱―

会期 令和4年(2022)8月6日(土)～9月25日
会場 東京藝術大学大学美術館



開催予定

|| 他

特別展
皇室の美と広島―宮内庁三の丸尚蔵館名品から―

会期 令和4年(2022)9月16日(金)～10月30日
会場 広島県立美術館

収蔵品検索ページ



① 収蔵品について

キーワード



写真作品を除く

画像がない作品
も含める ☐ OFF

並び順

最終更新日

降順

テーマから探す

三の丸尚蔵館の展示活動等について

■ 開館（平成5年）～ 令和4年までの 29年間の実績

項目	概要	
展覧会の開催	展覧会 計105回（企画展89回、特別展16回） 開 館 のべ5,241日間	
入館者数	のべ約739万人	例：令和元年 年間 約63万人 1日平均 約 3千人
出品点数	各回数十点～百点程度、のべ約8,800点を出品	
他館への作品貸出し	都内 計121回、のべ1,372点（37施設） 地方 計329回、のべ1,932点（41道府県、147施設） （うち地方展開 計7回 のべ434点） 海外 計20回、237点（米国、英国、フランス等）	
作品写真の提供 （出版物等への掲載許可）	例：令和3年度 のべ1,129点	
TV撮影協力	例：令和3年度 のべ56点	
出版物	展覧会各回の図録、収蔵品目録、年報・紀要、修理事業報告書等で、収蔵作品を解説・紹介	
収蔵品管理・公開システムの構築	令和3年度に収蔵品管理システム・収蔵品公開システムを構築し、令和4年度より両システムを用いた収蔵品管理とウェブサイトの公開、運用を開始。	